

下関市の水環境保全の取組について

下関市環境部環境政策課

1. はじめに

下関市は、本州の最西端に位置し、東南に周防灘、西に響灘、南は関門海峡を隔てて対岸の北九州市と、東は陸続きで山陽小野田市と美祢市、北は長門市と接しています。

人口は、令和2年10月1日時点での国勢調査では255,051人、

地勢は、市域中央部に標高600m程度の山々が連なり、平地は河川流域と海岸線沿いに見られ、平野に乏しく起伏の多い地形となっています。

気候は、県東部に比べ平均気温は高く、降水量は少なく、また沿岸部は海洋の影響で気温の日較差が小さくなっています。冬期においては、北西からの季節風が強く、山間部では降雪による降水量の増加が特徴的となっています。

響灘沿いの海岸線や角島などの島々が生み出す景観や豊田湖、華山等の山並みといった内陸部の豊かな自然環境は観光資源として活用されており、また日本の歴史の節目で重要な舞台となった、源平最後の戦いの場である「壇ノ浦」、武蔵・小次郎決闘の地「巖流島」、明治維新の志士高杉晋作挙兵の地「功山寺」など数多く存在し、観光都市としての一面を持っています。

2. 公共用水域の水質状況

本市では、市内の水環境を保全するため、河川、湖沼、海域及び地下水の環境監視並びに工場、事業場の排水監視を実施しています。

河川は類型指定されている6主要河川の合計17地点、海域は、周防灘、関門海峡、響灘にかけての20調査地点(9基準点、11補助点)において、水質汚濁状況の監視を行っています。また、類型指定の無い19小河川、8湖沼、11海水浴場、地下水10地点の水質調査及び約70件の工場、事業場の排水監視を行っています。

令和5年度の本市における「人の健康の保護に関する項目」については、河川、海域とも全ての調査地点で環境基準を達成していました。

また、「生活環境の保全に関する項目」のうち、有機物による汚濁度を示すBOD(河川)については、主要河川17調査地点中すべての調査地点が、またCOD(海域)については、20調査地点中すべての調査地点が、環境基準を達成していました。

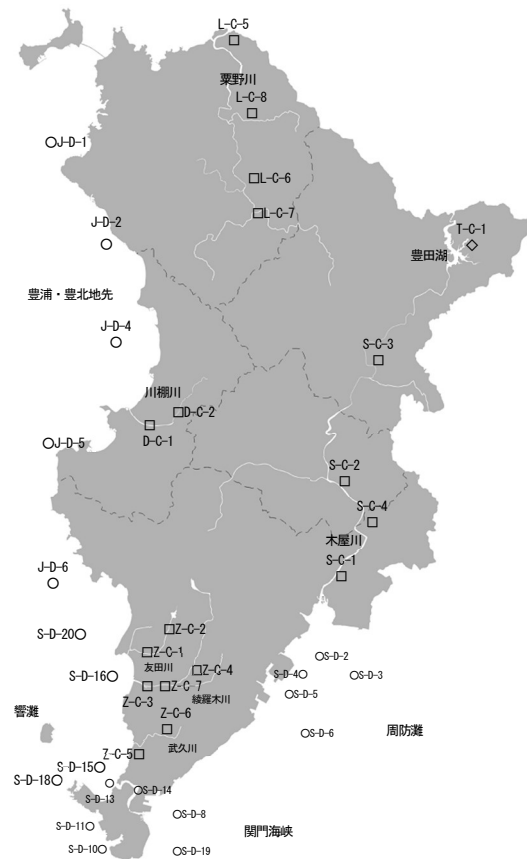


図 公共用水域水質環境監視地点

3. 環境保全の取り組み

3.1 水辺の教室

子どもたちが楽しみながら自然と触れ合うなかで、自然の多様性や私たちの暮らしとの関わりなどを学び、環境問題に関心をもつ機会をつくることを目的とし、例年夏休みに「水辺の教室」を開催しています。

令和6年度は、エコピアの森下関・深坂において、7月28日(日)に開催し、市内の小学生及び保護者計39人が参加しました。

会場内を流れる友田川で水生生物による水質調査を実施し、サワガニ等の指標生物をはじめ、タカハヤやカワムツ等の魚類も見られ、水質は水質階級Ⅰ「きれいな水」でした。



写真1 水辺の教室の様子

3.2 環境教室

小学生を対象に地球温暖化対策や環境保全に関する環境教室を行っています。

令和5年度は、市内小学校2校で出前講座を実施し、地球温暖化の勉強や身近な液体の水質検査実験を行いました。簡易COD検査キット(パックテスト)を使って、ジュースや米のとぎ汁等のCODを測定し、水の汚れや水環境の保全について学習しました。

小学生たちからは、環境を守るために自分たちができることを考えるきっかけになった等の感想をもらい有意義な教室が開催できました。



写真2 パックテスト結果

3.3 海辺の漂着物調査

漂着物の実態把握や「海の環境を守る心」を育むことを目的に、小学生と一緒に海辺に漂着するごみの調査を実施しています。

令和6年度は、市内小学校2校の4年生児童と協力し、漂着物の回収・分別・計量を行いました。

調査後の児童に対するアンケートでは、プラスチックごみの多さに驚いた、使えるものは捨てずに修理して使いたいなどの声が寄せられました。



写真3 海辺の漂着物調査の様子

4. おわりに

関門海峡や長く美しい山陰海岸、緑豊かな山並み、ホタルの生息する清らかな河川などの自然の適切な保全と活用を図り、その環境を将来の世代へ引き継ぐためにも、健全で恵み豊かな生活を維持し、私達の暮らしが環境負荷につながらないよう、自然と人が共生し、調和のとれた社会への転換を市民、事業者、行政が一丸となって目指していきます。